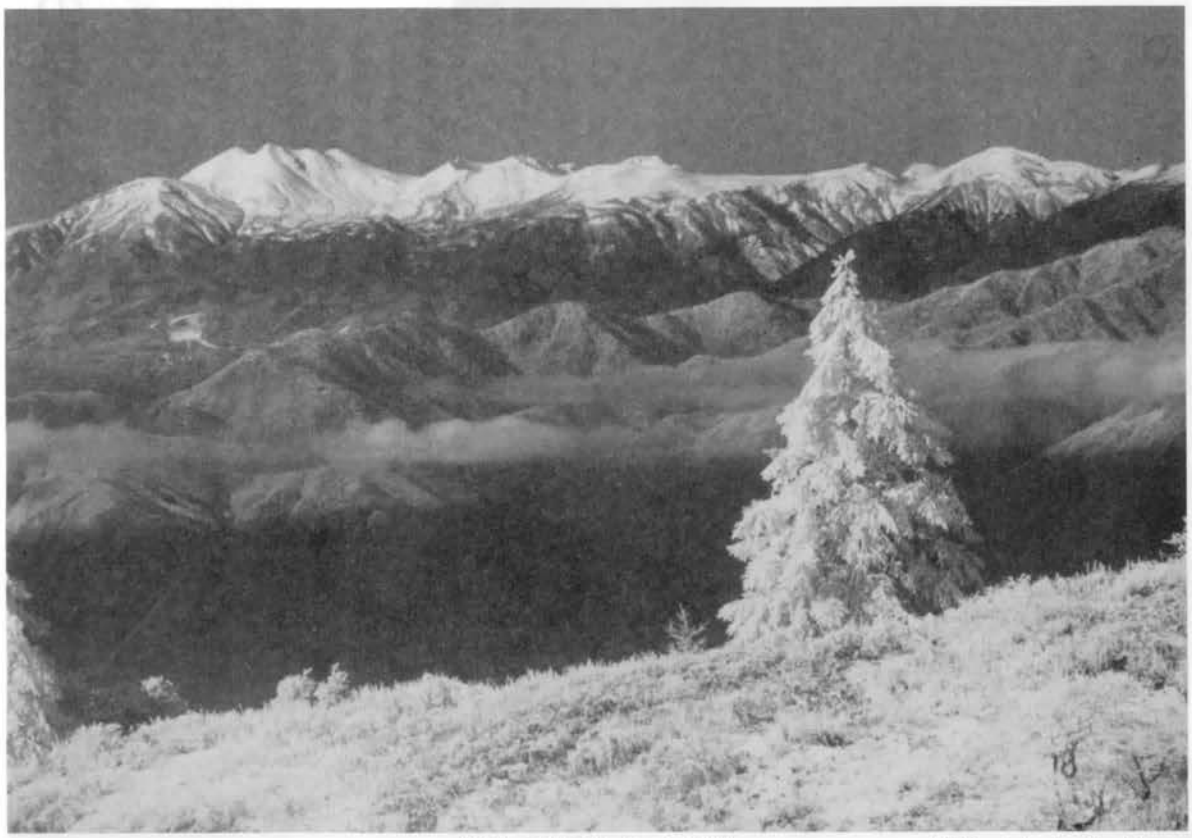
# 山と博物館

第44巻 第5号 1999年5月25日 市立大町山岳博物館

企画展「アルプスの見える風景 —中沢義直とその仲間たち—」
5／22(土)～6／20(日)



「厳冬乗鞍岳」美ヶ原より　撮影 田中治伸

## 「アルプスの見える風景 —中沢義直とその仲間たち—」開催にあたって

中沢義直（なかざわ よしなお）

信州に生まれ、山に囲まれた松本平に住む人間にとってアルプスの山並みから受ける精神的影響というものは日常生活や創作生活上からいっても、とても大きなものがあると思います。

私自身は安曇野に生まれ、そこで教育を受け、成人して東京に出て再び安曇野に戻っているけれども、今振り返ってみれば、どう考えても古里への郷愁よりもアルプスの山並みに惹かれてのUターンとしか思えない節があります。

さて、今回の写真展「アルプスの見える風景」開催については写真仲間全員が協力して、これに当たった訳ですが、出品者のほとんどが自然を愛し、アルプスを愛する人間の集いだからこそ大展示会を楽しくまとめることができたのです。

松本平、そして安曇野をめぐる高原と丘陵からは四季の色彩変化に富んだ北アルプスの美しい姿を眺めることができます。そして私たちはアルプスの風姿を画面のどこかに存在させて画面を構成することに精進するのです。

山岳写真のようで山岳写真ではない。それが私の教えている写真仲間たちの風景写真といえるかも知れません。北アルプスの山々があるからこそ田園も高原風景も一段と引き立つことを私の仲間はよく知っているのです。

私たち一同が心を込めて撮りためた「アルプスの見える風景」は安曇野を愛しアルプスを大好きな心が制作した作品といえます。

ご来観ありがとう存じます…。

（信州映像舎代表）

# 写真展「アルプスの見える風景」

## ―中沢義直とその仲間たち―」より

「失われゆく風景を撮り残したい」

宮田勝次

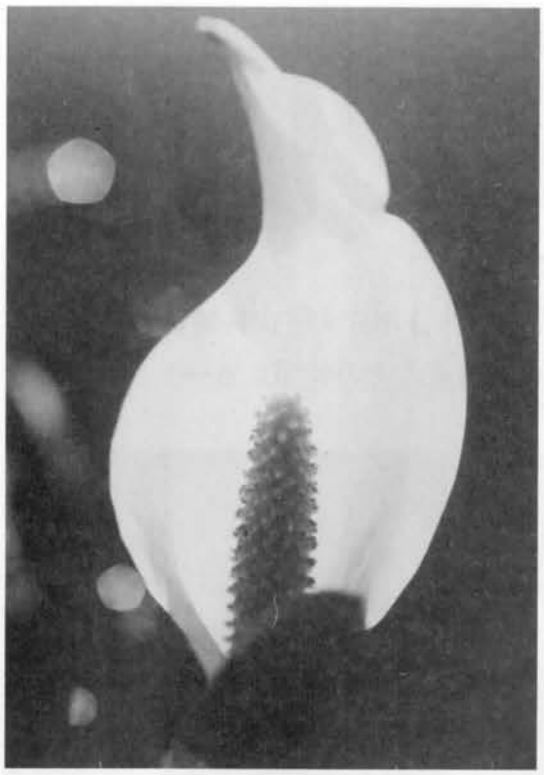
この度、中沢義直先生と私たち写真仲間の写真展が大町山岳博物館において開催されることになりました。先生が東京から安曇野の堀金村に居を移して早くも一〇年が過ぎました。

その間、私たちは先生に師事して写真を学んできました。先生は昨年素晴らしい写真集『安曇野の風』を出版されました。

私たち仲間の多くは、安曇野生まれで北アルプスの美しい山並みを毎日見て育ちました。

北アルプスの美しさは今も変わりませんが、その前景となる安曇野は大きく変わりました。

茅葺き屋根がなくなり、圃場整備で水田が規格化され、味のある曲りくねった農道や小川がなくなり、写真を撮る者にとって残念でなりません。今回の写真展を機会にさらに勉強をして、失われつつある安曇野の自然美とアルプスの見える風景を一枚でも多く写真に残していきたいと思っております。



「妖精のごとく」乗鞍高原にて　撮影　中沢義直
雪が消えて、春を待ちきれずに湿地に顔をもたげる水芭蕉。純白の妖精のように。

「初夏田植作業」　撮影　松島洋平
田植作業も最近はほとんど機械植えになったが、小型の田んぼのある地方ではこうして手作業が残っているのが懐かしい。

## 「私たちの写真展について」

唐沢博徳（からさわ ひろのり）

中沢先生をかこむ仲間の集いは平成元年からです。私たち仲間は結束強く、先生の主張する写真を写す心の探究と自然を見つめ、そのデリケートな変化を発見する目を養成しています。

今回初めて一ヶ月という長期公開展を私たち一同が経験することになりますが、これは将来に対して私たちが貴重な感覚を味わうことになると思います。

安曇野をかこむ丘や高原からはいつでも、どこからでも四季色彩豊かな日本アルプスを望むことができます。「アルプスの見える風景展」の構想もそういう環境からの発想となりました。仲間一同が一生懸命写した作品を見ていただくわけですが、苦心した速成展示方法について果たして効果があったかどうか心配です。

こうした長期展の機会を私たちに与えてくださった大町市に対し、仲間を代表して心から厚く御礼申しあげます。

「コマクサの花」

「クロユリの花」

「初夏槍ヶ岳」蝶ヶ岳より　撮影　山崎スミ子
残雪豊かな槍沢の左に大喰岳カールが見える蝶ヶ岳は、槍穂高連山を眺める一大展望台である。

「新雪乗鞍岳」　撮影　岩垂　誠
乗鞍岳はアルペンスキーのメッカであるが、晩秋のころは山麓一帯がカラマツの黄葉に埋められて実に壮観である。

「新雪穂高岳」上高地にて　撮影　瀬谷逸子
上高地の秋は早い。穂高岳には9月下旬すぎ新雪が訪れる。11月下旬になればすべての住人は里に下り、冬の静けさだけになる。

## 「アルプスと私たち」

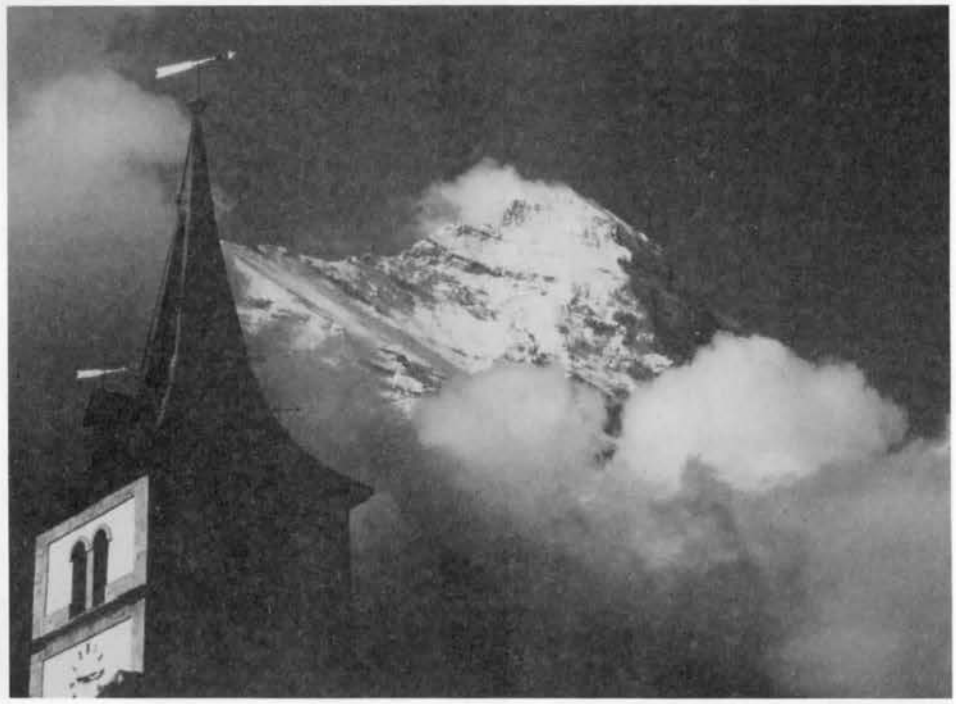
上原眞喜弘（うえはらまきひろ）

私たちは素晴らしい自然に恵まれた幸せをかみしめたり、主に安曇野を中心に思い思いの撮影を楽しんでおりますが、グループの恒例行事として毎年北アルプス撮影登山や上高地の撮影を行っています。冬の上高地入りは厳しいものがありますが、田代池の霧氷や赤芽の美しい化粧柳などとの出会いを想いつつ雪の道を踏みしめて登って行くのです。また、初夏に訪れる新緑の上高地ではニリンソウやエゾムラサキの群落を見ることの出来るのも魅力のひとつですが、草花にはその年々の天候で違いがあり、なかなかよいタイミングで会うことが出来ません。それがまた翌年への希望につながって行くのですが…。

その他には隔年に実施する外国での撮影旅行があります。多くの仲間が参加しますが旅先では全体としての行動は避け、小人数のパーティーで思い思いにコースを設定し、未知との遭遇に胸をふくらませシヤッター・チャンスを狙う毎日となります。雲が厚く落胆することもしばしばですが、それでも少しの晴れ間から白い峯が現れた時などはレリーズを押す指に思わず力が入ります。こうして魅力に満ちた国内外のアルプスとのふれあい、感動の時を求める私達のつきることのない作品づくりがこれからもつづきます。

「グランシャルモ針峯」フランス・シャモニにて　撮影　上原真喜弘

ヨーロッパアルプス4000mになると真夏でも雪が降る。昨夜の雨は山頂で雪、雲の晴間から新雪の岩肌がのぞいて来た。



「アイガー東山稜」グリンデルワルトにて　撮影　松島洋平

グリンデルワルトの町の上手に美しくて古い教会がある。宿舎のベランダから見ると、ちょうどアイガーの岩稜にマッチしてよい写材になる。

山と博物館　第44巻第5号
一九九九年五月二十五日発行
発行　〒398-0002 長野県大町市大字大町八〇五六―一
市立大町山岳博物館
TEL　〇二六―二二―〇二一一
FAX　〇二六―二二―二二三三
印刷　奥村印刷
定価　年額一、五〇〇円（送料共）（切手不要）
郵便振替口座番号〇〇五四〇―七―一三二九三